MESA/BOOGIE®

MULTI-WATT

取扱説明書

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従って設置して下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは２つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogieアンプはプロスペック用の機材ですので、規定に従って扱って下さい。

上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!

Multi-Watt
Mini Rectifier Twenty-Five

目次

Multi-Watt

Mini Rectifier Twenty-Five

取扱説明書

概要:

この度はMINI RECTOをお買い求めいただき誠にありがとうございます、そしてメサ・ファミリーへようこそ! 「ヘヴィ級のパワーや歪みは重量級のモンスターアンプだけが作ることのできるもの」という常識を覆すことをコンセプトに、アンプ界のフロンティアであるMESA BOOGIE 社が新たな挑戦に挑みました。Rectifier のサウンド、スタイル、方向性を1/4 サイズの筐体に継承する、即ちRectifier のもつモダン・ハイゲイン・サウンドと煌びやかなクリーン・サウンド、そしてまた、図太く芯のあるクラシック・クランチ・サウンドを幅約32cm の筐体に全て封じ込めた、ファン待望のアンプが遂に登場となります。

また出力も25w/10w の切替が可能、様々な演奏環境に適応できる柔軟性も兼ね備えた、究極の小型アンプヘッドとなっております。MESA BOOGIE 社でも、小型アンプヘッドの人気が非常に高い日本が、最も待ち望んでいたモデルでは?と日本の市場を十分に意識したモデルであることを自負しています。

仕様:

・Custom Designed & Hand Crafted in California

・メタルシャーシ/ ダイアモンド・プレート

・Class AB 駆動10w/25w Multi-Watt

・Dyna Watt™ Power

・2Channnel / 4 Style Modes

・オールチューブ:パワー管2xEL84 / プリ管5x12AX7

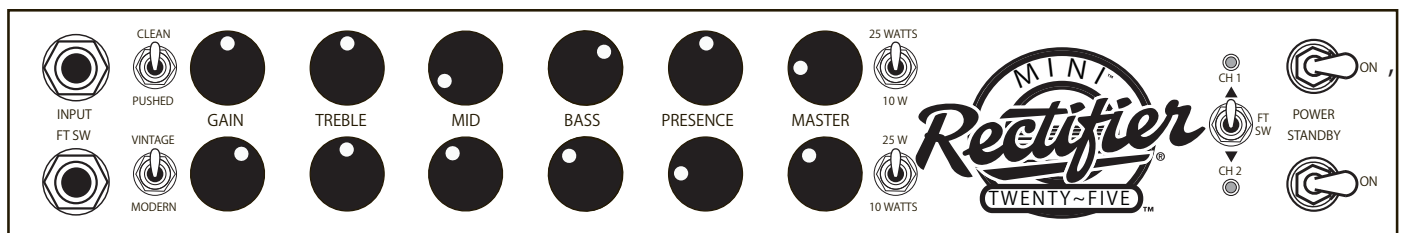
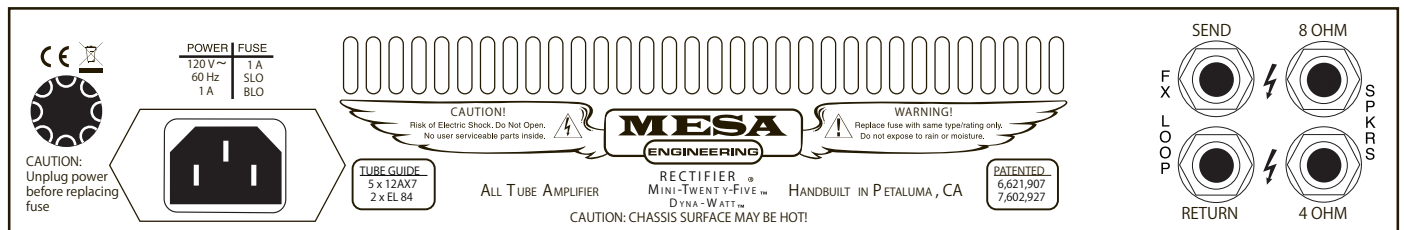
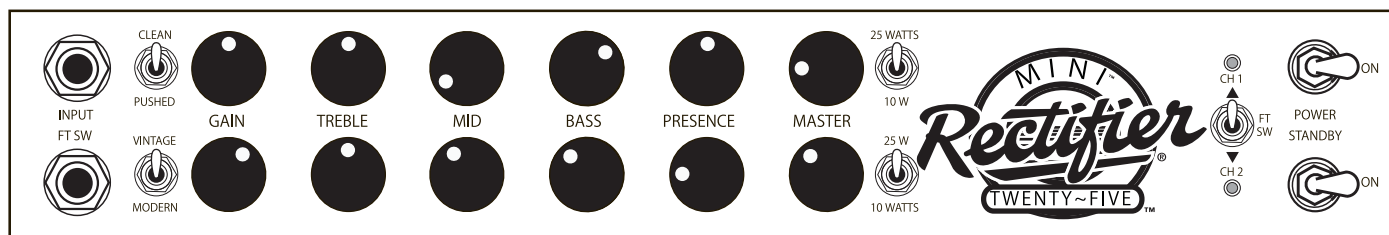
・オートバイアス機能

・フル・バッファードFX ループ

・サイズ:12 5/8" (W)x6 3/4" (D)x5 7/8" (H) ・重量:約5.5kg

・1 ボタン　フットスイッチ

・パッド付きGig Bag 付属（チャンネル切り替え用）

フロントパネル: *MINI RECTIFIER Twenty-Five*

バックパネル: *MINI RECTIFIER Twenty-Five*

フロントパネル: コントロールと特性:

役立ヒント:

1. パワーをONにセットして、30秒ほど待ってからSTANDBYをONにして下さい。電源を入れて、(特に長い時間使っていない場合) パワー管をウォームアップさせて下さい。STANDBYをONにしてから演奏して下さい。

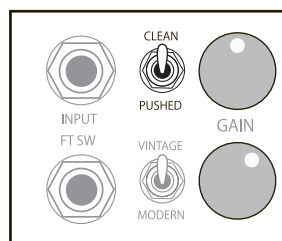
2. フロント・パネルのSTANDBYとPOWERの左にある「FT SW」と表示されている小さなトグル・スイッチで、チャンネルの切り替えが行えます。上でチャンネル１になり、下でチャンネル２になります。フットスイッチを使用する場合は、「FT SW」のトグル・スイッチを真ん中のポジションにして、フット・スイッチをフロント・パネルの左下のFT SWジャックに接続して下さい。

3. 通常使用時は、GAIN (ゲイン) を上げげたらBASS (バス) を下げて下さい。そうすることで、低域が乱れることなく、アタックがクリアーなサウンドになります。チャンネル1のCLEANやPUSHEDモードとチャンネル２のVINTAGEモードの時は特にそうです。

4. 片方のチャンネルだけが10Wパワー設定されていると、スイッチを押した時のポップノイズが若干大きくなります。これは高い電圧から低い電圧へ急激に変化するために起こります。(両チャンネルを10Wモードで使うとこのポップノイズは生じません) ポップノイズを避けるためには、フット・スイッチを使う予定のあるライブでは、なるべく25Wモードを使用すると良いでしょう。

チャンネルモード:

MINI RECTO (レクト) の２チャンネルには、選択出来るモード2種類ずつあります。ですから、各チャンネルには、それぞれ膨大な数のサウンド・バリエーションがあります。モードの選択は、小さなトグル・スイッチで行いますが、モードを切り替えるだけでサウンドは変わりますし、内部では電気的にも様々な変化が起きています。モードをどのように使うかはあなた次第です。このモードに、多様途に使えるフット・スイッチを加える事で、使い勝手は格段に向上します。

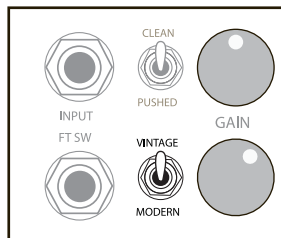
チャンネル1 : Clean/Pushed

CLEAN (クリーン) : これは、MINI RECTOの4種類のモードの中で、１番ゲインが低い回路を使用しており、バランスのとれた、ピュアでクリーンなサウンドに適しています。このモードで素晴らしいサウンドを生み出す為に、まずこのマニュアルのゲイン・チャンネル・セクションを参照して下さい。まずは、コントローラーを１２時半にしてみます。これより低いときらびやかなサウンドになり、これより高いと暖かみのあるサウンドになります。後は、ギター独自のレスポンスやサウンド・キャラクターによります。

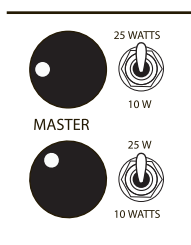
伝統的な回路で構成されるこのモードは、ビンテージ・スタイルのドライブ・サウンドにも向いています。GAIN (ゲイン) を右に回しきると、懐かしの美しいソロ・サウンドを生み出します。特にシングル・コイル・ピックアップとの相性は抜群です。TREBLE (トレブル) と MID (ミドル) コントロールを追加すると、ゲインが増して音のサスティーンを伸ばす事が出来ます。この場合、プレゼンスは少し抑えめにすると良いでしょう、そして、BASS (バス) コントロールは１０時半よりも低い設定にして下さい。それよりも高くすると、低音域の締まりがなくなり、アタックがぼやけたサウンドになってしまいます。

PUSHED（プッシュド）：このモードは、クリーン・モードの、柔らかくて優しいロー・ゲイン・サウンドとは全く異なるキャラクターのサウンドです。このモードは、プリアンプの最初のステージで、膨大なゲインを稼いでいるのですが、モード間のゲイン差は、このアンプの中で最も多くなっています。チャンネル１は、柔らかく優しいサウンドから、荒々しく激しいサウンドまで幅広いサウンド・キャラクターを網羅しています。この、とてつもないゲインは、とても表現力に富んだソロ・サウンドを生み出します。少ないステージでゲインを稼いでいるので、トーン・コントロールのネットワークがシンプルになります。それにより、ピックが弦に当たる感覚や、弾く感覚といったレスポンスが損なわれる事無く表現出来るのです。このモードは、MINI RECTOの中で、最もクールなオーバードライブ・ソロ・サウンドといえるでしょう。

ノート：PUSHED（プッシュド）モードで、GAIN（ゲイン）コントロールを最大値（５時半）に設定したら、TREBLE（トレブル）コントロールは２時半を超えない様にして下さい。２時半を超えるような設定をしてしまうと、プリアンプ管が発振してしまう可能性があります。GAIN（ゲイン）コントロールを最大値にしている時は、TREBLE（トレブル）コントロールを慎重に行って下さい。サウンドに明るさを加えたい場合は、PRESENCE（プレゼンス）コントロールを使用すると良いでしょう。

チャンネル2：Vintage / Modern

VINTAGE（ビンテージ）：このハイ・ゲイン・モードは、有名なRECTO（レクト）サウンドです。チャンネル２がオリジナル・サウンドになっています。その倍音成分と太くて柔らかいフィーリングは、多くのアーティストの楽曲で聴くことが出来ます。また、様々なアルバム・プロジェクトでも定番になっています。この表現力豊かなプリアンプと、レクト・ブラック・マジックの真空管パワー・セクションの組み合わせは、多くのプレーヤーを釘付けにしています。単音のソロ・サウンドなら、VINTAGE（ビンテージ）モードにして普通に弾くだけで、音楽的で自然な、真空管のコンプレッションがかかったサウンドになります。

MODERN（モダン）：アグレッシブ。この単語程RECTO（レクト）のこのモードを端的に表現している言葉は無いでしょう。軽快で素早いレスポンスから生み出される、荒々しく、攻撃的なサウンドは、ハード・コア・サウンドの新たなスタンダードになりつつあります。基本的には高域のソリッドさを維持しながら、低域のレスポンスにタイトさが加わったMODERN（モダン）モードは、ゲイン設定を極端にしても音がつぶれる事無く各ノートの粒立ちがはっきりしています。

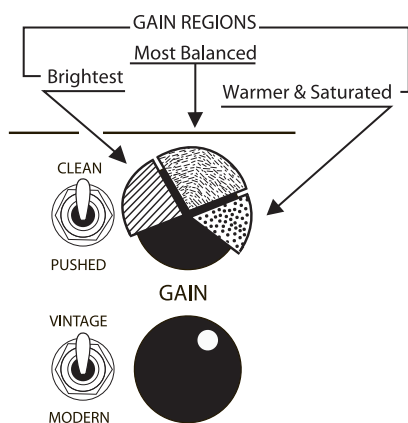
Multi-Watt™ Power（マルチ・ワット・パワー）

概要の項でも触れた様に、MINI RECTOはメサが特許を有するMulti-Watt Power選択を搭載しています。パワー選択は、２つの異なるワイヤリング構成から選択します（10 Watt = EL84が3極管ワイヤリング、25 Watt = EL84が5極管 ワイヤリング）。この強力な機能はメサのアンプにしかありません。パワーを選択してボリュームやトーンをコントロールする事で、大きな音量が必要なライブや小さな音量で充分なレコーディング等、様々な状況に対応出来るのです。

MINI RECTOは、他の２５ワットのアンプよりも音が大きくダイナミックな印象を持たれた事でしょう。それはメサが特許を有するDyna-Watt（ダイナ・ワット）のおかげなのです。

Dyna-Watt（ダイナ・ワット）は、２基のEL84パワー管を構成する技術であり、それにより音の立ち上がりに余裕のある、大きなヘッドルームを獲得しているのです。Dyna-Watt（ダイナ・ワット）は、溜めたパワーを一定の時間をかけて放出する回路により構成されていますので、出力の小さなアンプでもパワフルに感じられるのです。これは、サウンドに柔らかいクリップ、弾けるようなダイナミックさ、そして伸びやかなディケイを与えてくれます。Dyna-Wattを搭載したMINI RECTOは、信じられないほど素晴らしいサウンドを提供してくれます。

コントロール：

Gain（ゲイン）： このつまみで各チャンネル回路へのゲイン・レベルを調整します。MINI RECTOは、１つのシャーシの中に、2基のマルチ・モード・アンプが内蔵されており、各チャンネルは独立しています。GAIN（ゲイン）コントロールつまみも、それぞれ専用に用意されていて、回路も独立しています。

ほとんどのギター・アンプ、とりわけ全真空管回路においては、プリアンプのGAINコントロールが最も重要なコントローラーにな ります。GAINコントロールは、全体のスタイル、そして、クリーン・サウンド、オーバードライブ・サウンドといった、サウンドのキャラクターを決定づける役割を担っています。MINI RECTOにおいて、GAINコントロールは、さらに強力です。GAINコントロールは、ドライブの量を決めるだけでなく、トーン・コントロール全体を決定づける役割を担っているのです。

GAIN（ゲイン）コントロールをわかり易くする為に、２通りの説明をします。
1; GAIN（ゲイン）コントロールのみ、2; トーン・コントロールとの組み合わせ

1) GAIN（ゲイン）コントロールを３つの領域に分けて、それぞれのトーン・キャラクターをコントロールします。低 (７時から１１時) この領域はクリーン・サウンドです。歪みが最も少なく、明るく、高次倍音を豊富に含んだサウンドが特徴です。

中 (１１時から２時)この領域は、歪みが強調され、高次倍音の成分が変化し、豊かで暖かみのあるサウンドになり、それに加えて低域のレスポンスも向上します。まだ飽和しきるところまではいっていませんが、３つのチャンネル全てで、この領域が最も扱い易いといえるでしょう。この領域がRECTO（レクト）のベスト・サウンドの多くを生んでいます。特にソロ・サウンドにおいては、表現力に富んだアタック・レスポンスと、サスティーンが絶妙にブレンドされています。

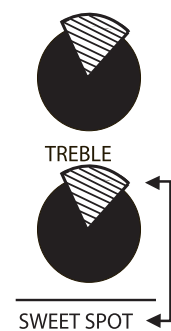
高 (２時から５時)この領域は、低域から中低域にかけての信号が歪んでいます。最大限の歪みを得る事によって、サウンドのサスティーンを生み出しています。それと同時にコンプレッションがかかるので、アタックが柔らかくなります。これらの事を総合的に考えると、この領域は、サウンドにサスティーンを必要とする時のみにした方が良いといえるでしょう。

ノート: MINI RECTOは凄まじいばかりのゲイン・ポテンシャルを持っているので、ゲインを高くしすぎると、プリアンプ管でハウリングを起こしてしまう事があります。弊社では、アンプの真空管に対しても厳格なテストを施し、合格したものをアンプに組み入れていますが、あまりにも高いゲインの入力に曝される事が多いと、真空管の寿命は縮まっていきます。真空管を末永く使用いただく為にも、高すぎるゲイン設定は出来るだけ避ける事をお勧めします。

ボリュームが小さいと感じたら、TREBLE（トレブル）やPRESENCE（プレゼンス）の設定も確認して下さい。RECTO（レクト）は、極端な設定をしなくても、充分ゲインやトーンのコントロールが出来る様に設計されています。

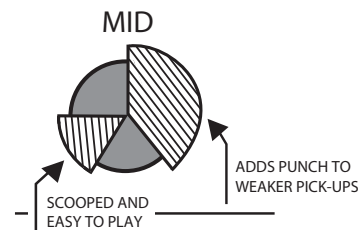
2.) GAIN（ゲイン） -トーン・コントロールとの組み合わせ- まず、基本的に守るべきルールがあります。それは、ゲインを上げ過ぎないこと。ゲインが高過ぎると、トーン・コントロールをいくら調整しても効果は得られません。以前の項でも述べましたが、ゲインは中位を基本にして微調整をする様にして下さい。そうする事で、トレブル、バス、プレゼンスといったトーン・コントロールが生きてくるのです。

Treble（トレブル）：

ほとんどの真空管ギター・アンプにおいて、TREBLE（トレブル）コントロールは、ゲインの次に効果的なコントローラーといえるでしょう。その理由は、トーン・コントロールの信号経路で最初に通るという事です。信号はその後、ミドル、バスと流れていきます。ですから、３バンドの中でも、TREBLE（トレブル）コントロールの設定はとても大切です。MINI RECTOのトーン・コントロールは、ほとんどがTREBLE（トレブル）で行われ、その後、MIDDLE（ミッド） BASS（バス）の順に流れていきます。

トレブルには明らかにスイート・スポット（効果が高いポイント）があります。それは、中位の領域（１１時から１時半）です。そして、TREBLE（トレブル）と他の２つのトーン・コントロールのバランスが大切であるという事も覚えておいて下さい。

音作りをしていると、たまに大胆な事をしたくなって、RECTO（レクト）のチャンネル１のTREBLE（トレブル）を強めにしてしまう事があるかもしれません。どちらのモード（クリーンとプッシュド）においても、TREBLE（トレブル）コントロールは強力です。クランチ・サウンド用のPUSHED（プッシュド）モードでは特に効果的です。PRESENCE（プレゼンス）コントロールを使用して同様の効果を得ようとすると、コンプレッションのかかった、太いサウンドになります。また、このようなコントロールをしすぎると、BASS（バス）コントロールの効果がなくなってしまいます。音作りはバランスを考慮しながら行う様にして下さい。これは結果的に、チャンネル１のPUSHED（プッシュド）モードでは、TREBLEコントロールを、２時半よりも高い設定にしない方が良いという事に繋がるのです。

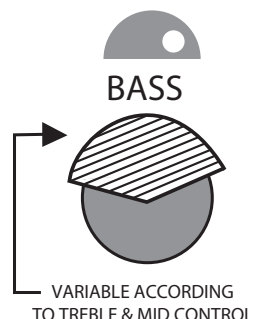
MID（ミッド）： MID（中域）コントロールは、サウンドの中域の周波数帯を、どの程度強調するかを調整します。このコントロールは、トレブル程劇的な効果は望めません。サウンドが柔らかく感じられるか、固く感じられるかといったニュアンスをコントロールします。

MIDDLE（ミドル）コントロールを低め（７時から１１時）に設定すると、中域が少なくむしろ低域が少し強調された感じになり、パンチの無い、コンプレッションのかかったサウンドになります。MIDDLE（ミドル）コントロールを少し強め（１１時半から１時半）にすると、丸みのあるサウンドになり、中域のアタックが素早くなります。

MIDDLE（ミドル）コントロールをこれよりも上の領域（２時から５時）にすると、ゲインが大きくなり、明瞭度が増していきます。これにより、サウンドは太くなり、コンプレッションがかかった感じはやや少なくなります。また、このコントローラーは、出力の小さなピックアップの音量を補正したり、ピッキングの強さによる、サウンドの変化を調整するのに向いています

チャンネル１のMIDDLE（ミドル）コントロールは、チャンネル２と異なるカーブ特性と値に設計されています。低め（１２時未満）に設定すると、通常の中域コントローラーとして動作します。７時から１０時半位で、クリーン・サウンドになり、これにトレブルと、バスのコントロールを加えることで、さらに純粋でクリーンな、弾けるようなサウンドになります。

チャンネル１のMIDDLE（ミドル）コントロールを、１時を超える設定にすると、ゲインが増して、中域にパンチが出てきます。これをさらに高い（３時から５時）設定にすると、クリーン・モードと、プッシュド・モードで極端な設定をした時のような、ゲインを得る事が出来ます。

MIDDLE（ミドル）コントロールを、高い設定にする場合は、他のトーン・コントロールの設定は抑えめにした方が良いでしょう。チャンネル１のMIDDLE（ミドル）コントロールの柔軟性の高さが、チャンネル１のサウンド・バリエーションの豊富さを支えているのです。

BASS（バス）：

BASS（バス）は、トーン・コントロールの信号経路の中で一番最後になります。このコントロールは、2つのチャンネルに個別に動作し、サウンドの低域の量をコントロールします。しかし、実際の効き具合はチャンネル毎に変化します。MIDDLE（ミドル）コントロールの時と同様に、信号はTREBLE（トレブル）コントロールを通った後に来ますので、TREBLE（トレブル）コントロールの設定が高いと、BASS（バス）とMIDDLE（ミドル）コントロールの効果は少なくなってしまいます。反対にTREBLE（トレブル）コントロールの設定が低いと、BASS（バス）とMIDDLE（ミドル）コントロールの効果は大きくなります。

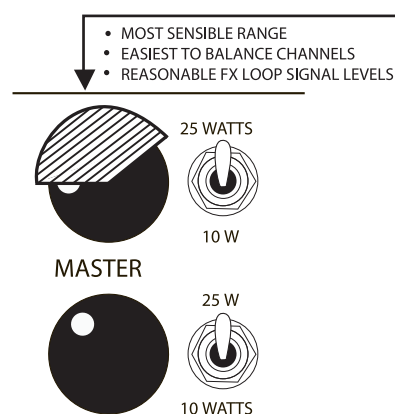
３つのトーン・コントロールで、最もバランスのとれたサウンドやパワーを生み出す為には、まず、TREBLE（トレブル）コントロールを中位に設定する事から始めて下さい。これにより、それぞれのトーン・コントローラーが本来の働きをする事が出来る様になります。

１つだけ覚えておいて頂きたいのは、かけ過ぎるとアタック音がつぶれてしまい、他の楽器に埋もれてしまうという事です。GAIN（ゲイン）を上げたら、必ずBASS（バス）を絞る、これだけを守って頂ければ後は心配いりません。

PRESENCE（プレゼンス）：

プレゼンス・コントロールは、プリアンプの最終ステージにある高音域のアッテネーターであり、TREBLE（トレブル）コントロールよりも高い音域に影響を与えます。プレゼンス・コントロールは、他のトーン・コントロールとは独立して動作します。

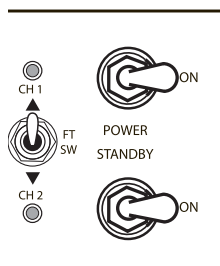
PRESENCE（プレゼンス）コントロールを低めに設定すると、暗めのサウンドになり、太くてコンプレッションのかかった、単音のソロ・サウンドに向いた音になります。RECTOの中でも良いリード・サウンドは、PRESENCE（プレゼンス）コントロールが低めに 設定されており、バランスのとれた、ボーカルのようなレスポンスを生み出しています。

Master（マスター）：

MASTER

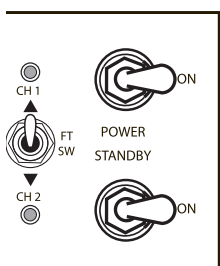
このコントローラーは、プリアンプの最終段の出力レベルをコントロールします。そして、ここでコントロールされたレベルで、ドライバー・ステージやエフェクト・ループに送られます。MASTER（マスター）コントロールは、チャンネル毎に独立していますので、各チャンネルは、互いになんの影響を受ける事も無く、それぞれの出力音量を設定する事が出来ます。MASTER（マスター）コントロールは、ロー・ゲイン・サウンドを大きなボリュームで鳴らす事も、ハイ・ゲイン・サウンドを小さな音量で鳴らす事も出来る、幅広い能力を備えています。

広いレンジの中でも、特に微妙なコントロールが効く範囲は、９時から２時の間です。出来る限りこの範囲で調整した方が、エフェクト・ループを使用する場合も、より良い結果が得られるでしょう。

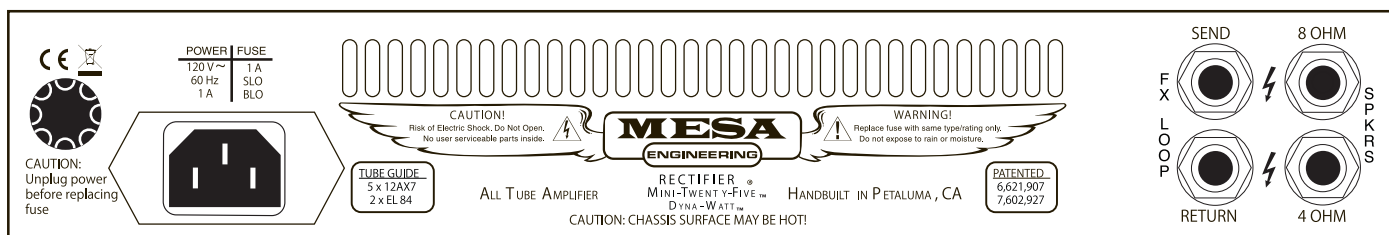
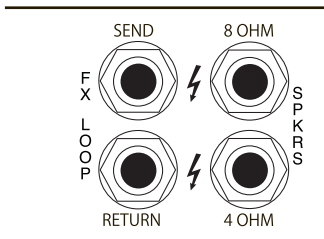
ノート: MASTER（マスター）コントロールは、エフェクトループへの送りのレベルもコントロールしているので、これを極端に高い設定にすると、過大な信号がエフェクト・プロセッサーに送られる事になり、結果的に、エフェクト・プロセッサーの入力段でオーバーロードする事になってしまいますので、注意が必要です。

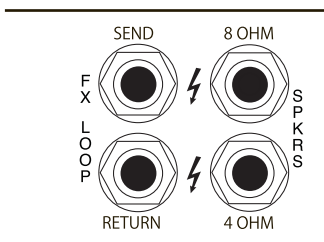
Standby（スタンバイ）：

このトグル・スイッチは大変重要な役割を担っています。このスイッチがスタンバイの位置にある時は、真空管はまだ準備段階で、ウォームアップをしています。電源を入れる時は、このスイッチがスタンバイの位置にある事を確認して下さい。

電源を入れてから、最低３０秒の時間をおいてから、このスイッチをオンにする様にして下さい。そうする事で、真空管のトラブルを予防出来ますし、良い音で使用出来る期間が長くなります。

Power（電源スイッチ）：

これは、MINI RECTOに電源を供給するためのスイッチです。電源のアースがとれている事を確認して下さい（これは、アンプのみならず、演奏者の安全の為にも重要な事です）。また、コンセントに適正な電圧が供給されている事を確認して下さい。

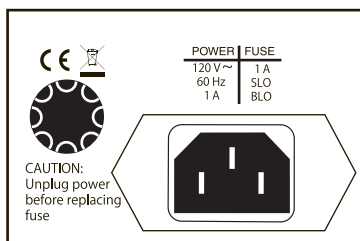
フロント・パネルの機能トコントローラーに関しての説明は以上ですが、ここからはMINI RECTOのバックパネルについて説明します。

バックパネル:

スピーカー：

MINI RECTOは、８オームと４オームのスピーカー出力を装備しています。これにより、様々なスピーカーの組み合わせを可能にしています。求めるサウンドを見つける為に、様々な組み合わせを試す事をお勧めします。インピーダンスが合っていないとどういう音になるかという事も、知っておいて損は無いでしょう。インピーダンスが合っていなくてもアンプを壊す事はありません。しかし、インピーダンスが高い方に合っていないと、パワー管の寿命が少し縮まります。このマニュアルに、スピーカー接続図のサンプルがありますので、それを参考にして、さらに自分のオリジナリティーを加えて下さい。

FX Loop（エフェクトループ）：

MINI RECTOでは、外部のエフェクト・プロセッサーを使用する事が出来ます。この回路は、プリアンプとパワー・セクションの間に直列に接続されます。接続は直列（プリアンプの出力がエフェクト・プロセッサーに入力され、その出力がパ ワー・セクションに戻ります）ですので、エフェクト・プロセッサーのクオリティーがとても重要になります。

エフェクト・プロセッサーのクオリティーが低いと、アンプの出力のクオリティーも落ちてしまいます。この端子の入出力インピーダンスは、市場に出回っているほとんどのプロセッサーと互換性がありますので、そんなに高級な製品でなくても大丈夫です。ただし、エフェクト・プロセッサーのクオリティーが出力のクオリティーに大きな影響を与える事は覚えておいて下さい。

ノート: エフェクト・ループは、プロフェッショナル仕様のラック・マウント・プロセッサーの適正レベルに調整されています。ペダル・タイプのエフェクターを使用される場合は、フロント・パネルの入力端子に直列（楽器の出力をエフェクターに入力して、エフェクターの出力をアンプの入力端子）に接続して下さい。エフェクト・プロセッサーを接続する事で音質が変わる事がありますが、これはある程度仕方の無い事です。それでもエフェクト・プロセッサーを使用するかどうかを判断するしかありません。

電源ソケット/フューズ：

電源コードをこのソケットに差し込みます。アンプの電源を入れる前に、必ず電源コードがソケットにしっかり入っている事を確認して下さい。

メモ: ３芯プラグの電源コードを他のものに変えないで下さい。

フューズ：これは、メイン・ヒューズです。ヒューズは、外的要因による電源の過大入力からパワー管を保護する役割を担っています。ヒューズを交換する場合は、Slo-Bloタイプの同じ規格のものを使用して下さい。

度々パワー管がショートしたり破損したりする場合は、ヒューズがとんでいる可能性が高いのでチェックして下さい。POWER/STANDBY（スタンバイ）セクションの説明に従ってスタンバイ・スイッチをオンにしてもパワー管が正常な動作をしない場合は、即座にスタンバイ・スイッチをスタンバイに切り替えて、パワー管を交換し必要であればヒューズも一緒に交換して下さい。

サンプル・セッティング

サンプル・セッティング #1:

TITLE: Sweet Clean (CH1) / Soulful Solo (CH2)

サンプル・セッティング #2:

TITLE: Fat Clean (CH1) / Classic Rock (CH2)

サンプル・セッティング #3:

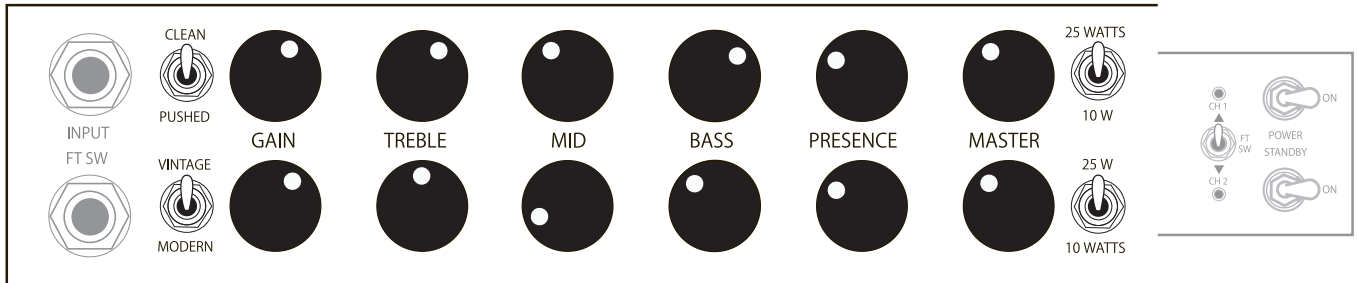
TITLE: Edge Clean (CH1) / Fat Crunch(CH2)

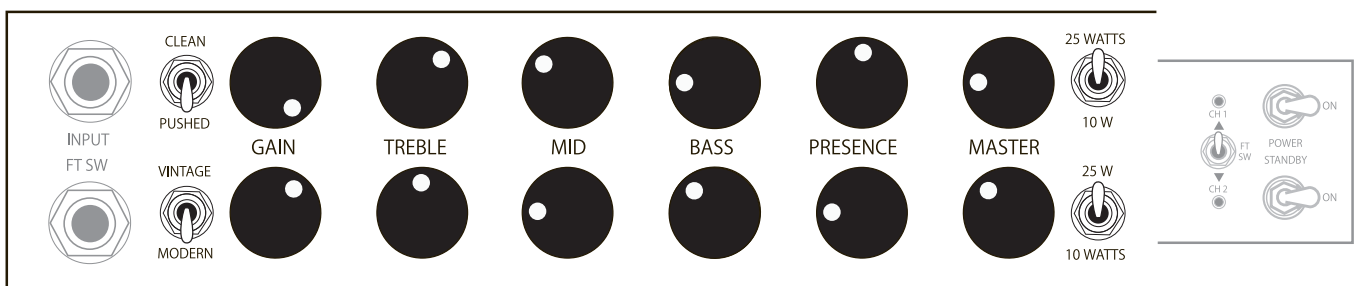
サンプル・セッティング #4:

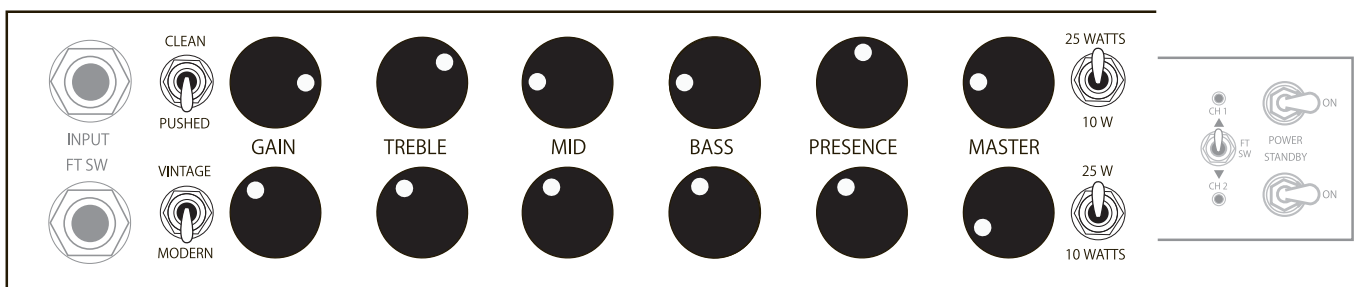
TITLE: Old School Cranked(CH1) / Stinging Blues(CH2)

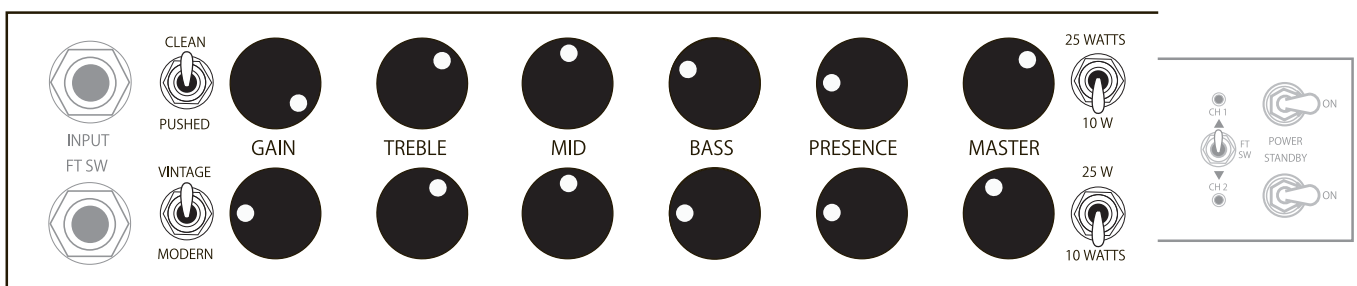
サンプル・セッティング

サンプル・セッティング #5:

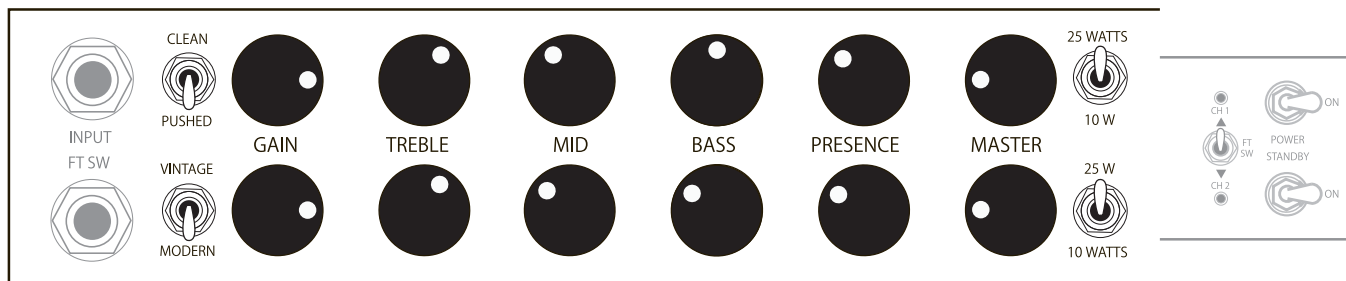
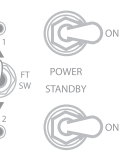
TITLE: Rock Clean (CH1) / Liquid Gain Solo (CH2)

サンプル・セッティング #6:

TITLE: Tight Crunch(CH1)/ Blistering Lead(CH2)

サンプル・セッティング #7:

TITLE: Punk Rhythm(CH1)/ Fast Bright Lead(CH2)

サンプル・セッティング #8:

TITLE: Little Amp Cranked(CH1)/(CH2)

サンプル・セッティング

サンプル・セッティング #9:

TITLE: Rock Rhythm (CH1) / Ridiculous Gain Lead (CH2)

サンプル・セッティング #10:

TITLE: Tight Gain Rhythm (CH1)/ Lo Power Lead (CH2)

ユーザ・セッティング・テンプレート

TITLE:

TITLE:

TITLE:

TITLE:

ユーザ・セッティング・テンプレート

TITLE:

TITLE:

TITLE:

TITLE:

ユーザ・セッティング・テンプレート

TITLE:

TITLE:

TITLE:

TITLE:

MINI RECTIFIER® TWENTY FIVE

真空管を交換する前に必ず電源を切ってください。

真空管機能表

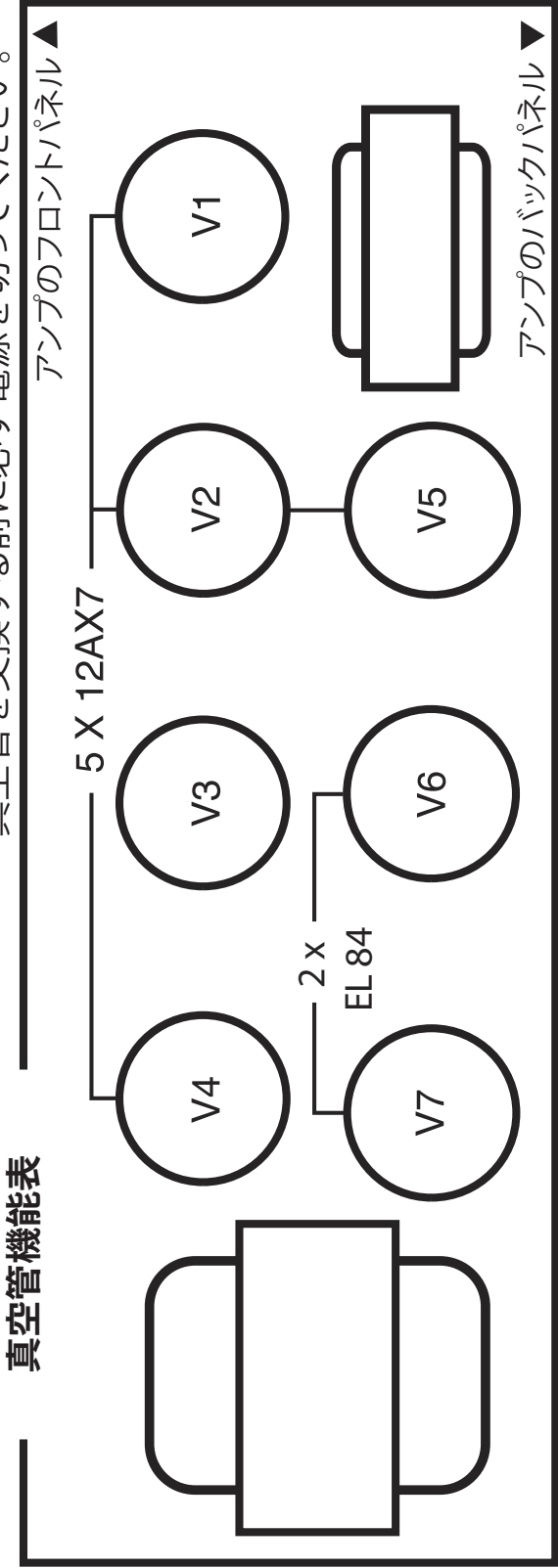
アンプのフロントパネル ▲

5 X 12AX7

V4 V3 V2 V1

2 x EL 84

V7 V6 V5

アンプのバックパネル ▼

真空管（プリアンプ）	
V1A	- CH1ゲイン第3段
V1B	- CH1&CH2入力段
V2A	- CH2ゲイン第3段
V2B	- CH1&CH2ゲイン第2段
V3A&B	- CH2トーンコントロールドライバー
V4A&B	- ドライバー、フェーズスプリッター
V5A	- エフェクトループ（センド）
V5B	- エフェクトループ（リターン）

真空管（パワーアンプ）
25W＝V6, V7 （5極管）
10W＝V6, V7 （3極管）

スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド:

インピーダンス:

スピーカー接続において最も基本的で重要なのは、位相を正相にする事です。これにより素晴らしい音を出力する事が可能になります。これはそんなに難しい事ではありません。負荷についていくつかの事と、最適な負荷でスピーカーを接続する事を理解すれば良いのです。

MESA/Boogie アンプは、４オームと８オームを扱う事が出来ます。真空管アンプは、４オーム未満でドライブする事はしないで下さい。;これを行うと、出力トランスを損傷する可能性があります。２オームを扱う事の出来る数少ないアンプ（例えばMESA（メサ）のBass 400+ ）であれば大丈夫です。反対に高い抵抗値（例えば１６オーム等）の場合はアンプを傷める事はありません。

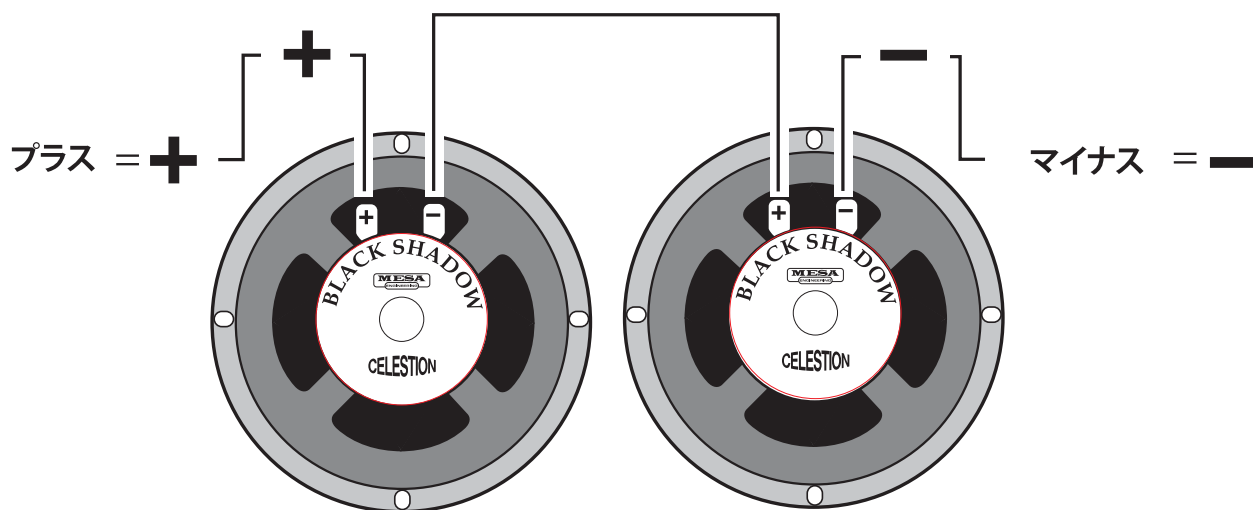
ミス・マッチング:

高い抵抗値（例えば８オーム出力を16オームのキャビネットに接続）でドライブすると、少しフィーリングが異なり、レスポンスが際立った感じになります。少しのミス・マッチであれば、トーンが若干暗く、出力とアタックが少し弱く、レスポンスが少し速くなる程度です。スピーカー・キャビネットが複数になると、ミスマッチは選択肢の１つになるほどです。

キャビネット・インピーダンスの算出方法:

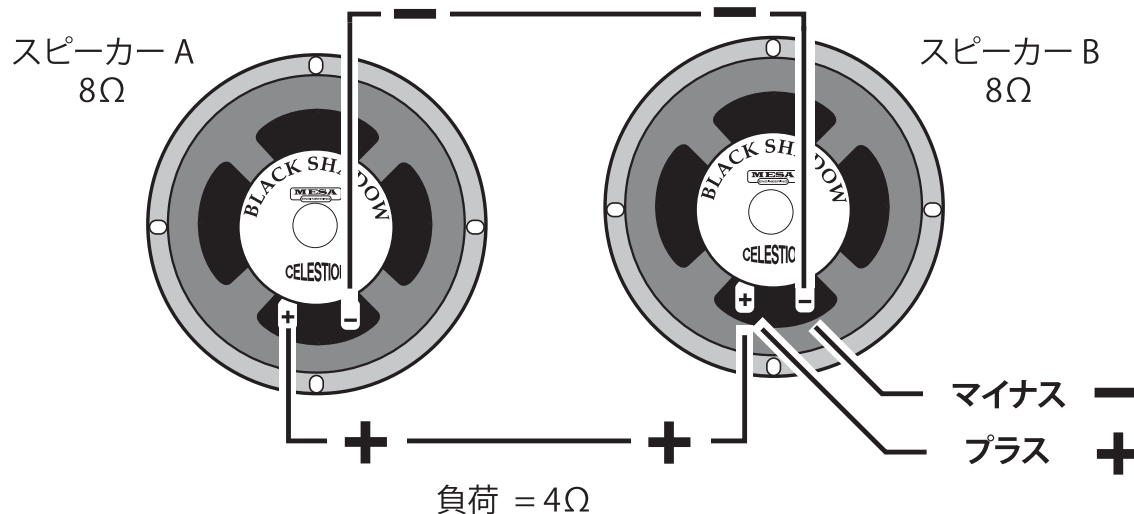
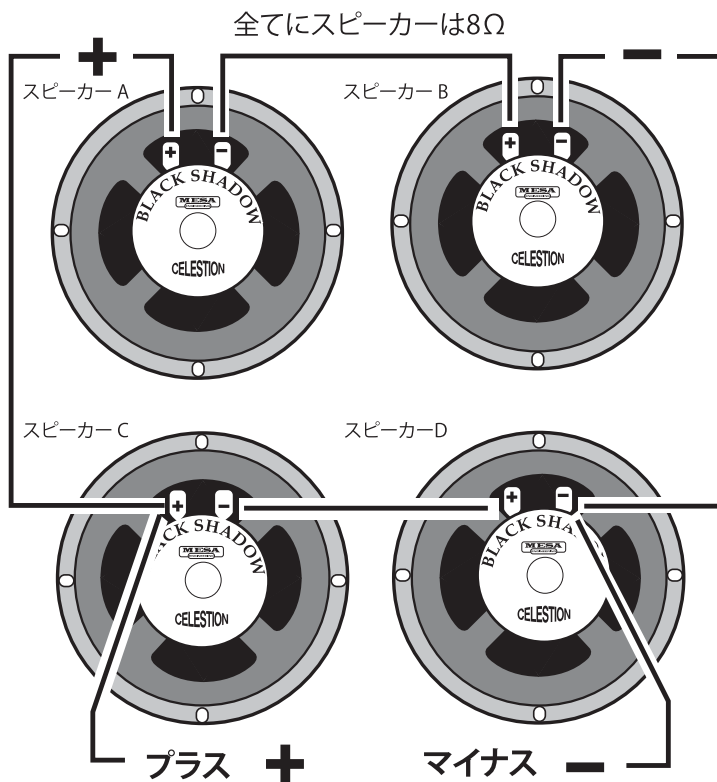
お持ちのスピーカーが１台の場合は、そのスピーカーのインピーダンスとアンプのインピーダンスを合わせて下さい。複数のスピーカーをお持ちの場合は、アンプにかかる負荷を計算しなければなりません。複数のスピーカーの接続方法は次の３種類になります。:

シリーズ（直列）:

スピーカーを直列に接続した場合、それぞれのスピーカーのインピーダンスを単純に加算します。例えば、８オームのスピーカーを２台直列に接続した場合は、16オームになります。

シリーズ（直列）: スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続

スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド（続き）:

パラレル（並列）:

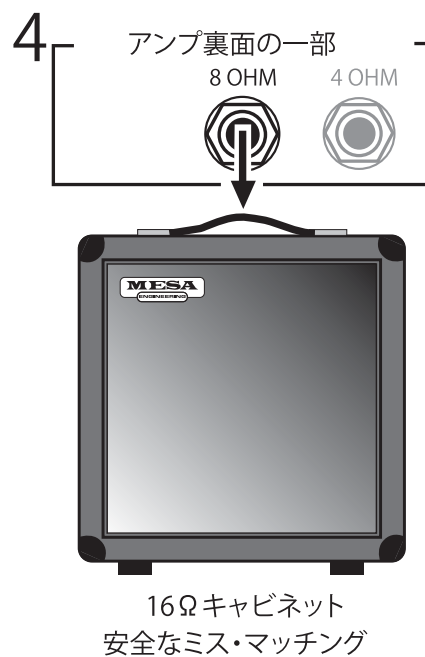
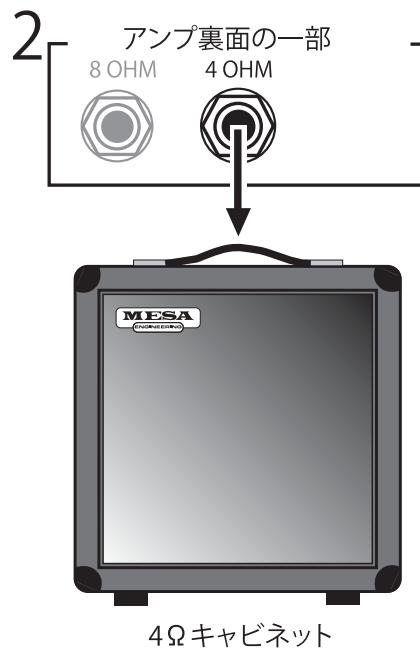
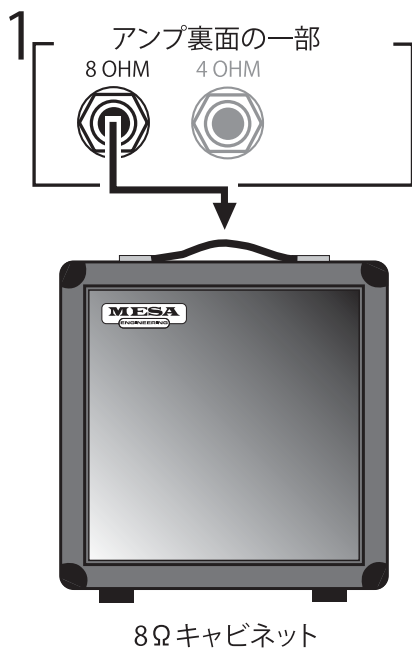
スピーカーを並列に接続した場合、スピーカーの抵抗値は下がります。２台の８オーム・スピーカーを並列に接続した場合、負荷は4オームになります。接続するスピーカーが全て同じ抵抗値であれば計算は簡単ですが、異なる抵抗値のスピーカー（例えば、8オームと4オーム、16オームと8オーム等）を並列に接続する場合は、少しややこしくなります。計算式は、それぞれの抵抗値をかけ算した数値を、それぞれの抵抗値を足し算した数値で割ります。例えば８オームと４オームであれば、8×4÷（8＋4）＝2.6666オームになります。パラレル（並列）: スピーカーAのプラス端子とスピーカーBのプラス端子、スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのマイナス端子をそれぞれ接続。

シリーズ（直列）とパラレル（並列）の組み合わせ:

これは、２セットの直列接続したスピーカーを並列に接続する組み合わせです。ここで重要なのは、全てのスピーカーの合成抵抗値が低くなり過ぎてアンプに負担をかけない様にする事です。

スピーカーAのプラス端子とスピーカーCのプラス端子を接続。

スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続。次にスピーカーCのマイナス端子とスピーカーDのプラス端子を接続。

そして最後にスピーカーBのマイナス端子とスピーカーDのマイナス端子を接続します。

４台の８オーム・スピーカーをシリーズ・パラレル接続した時の合成抵抗値は、８オームになります。

接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

8Ωキャビネット

4Ωキャビネット

8Ωキャビネット
安全なミス・マッチング

16Ωキャビネット
安全なミス・マッチング

接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

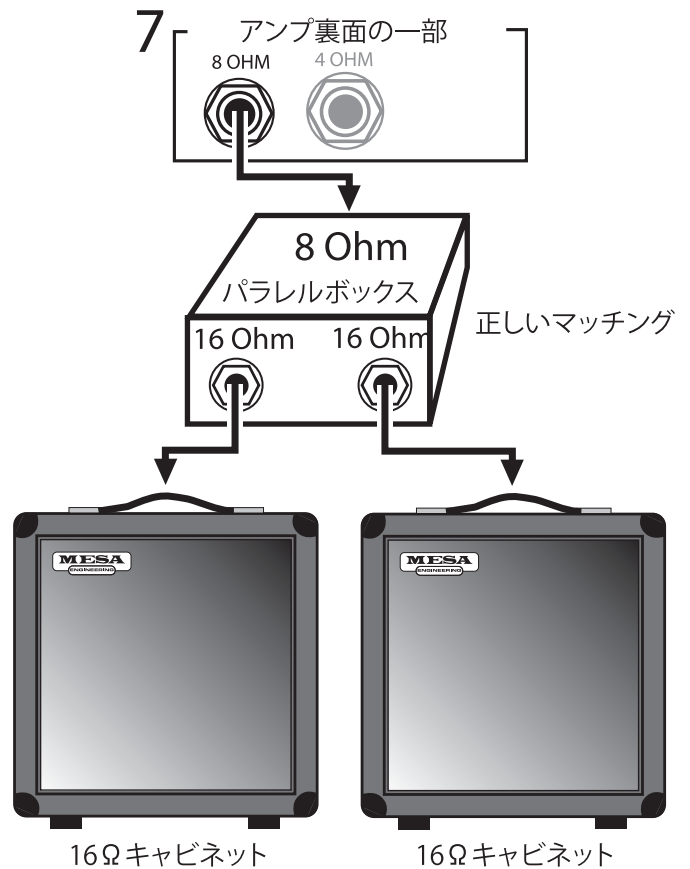
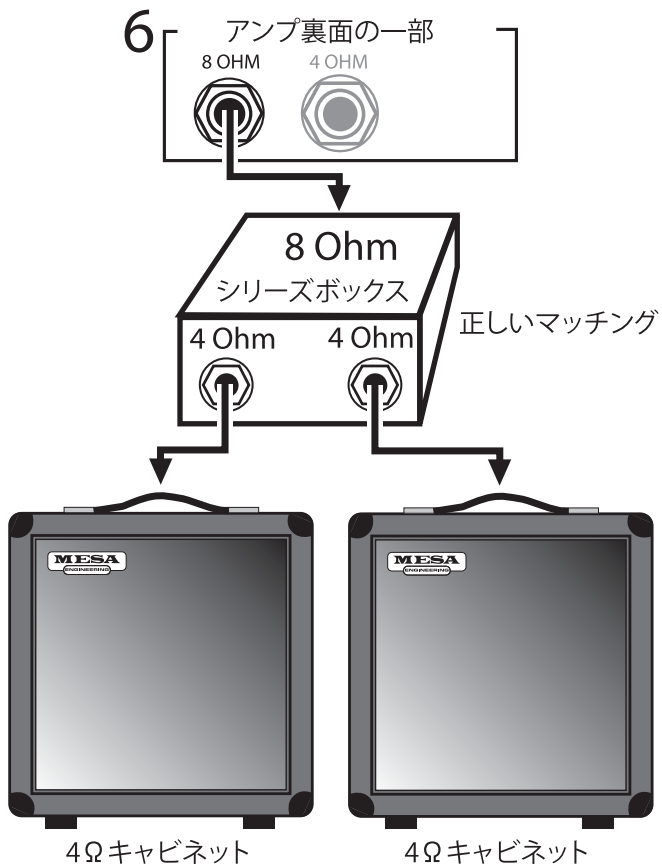
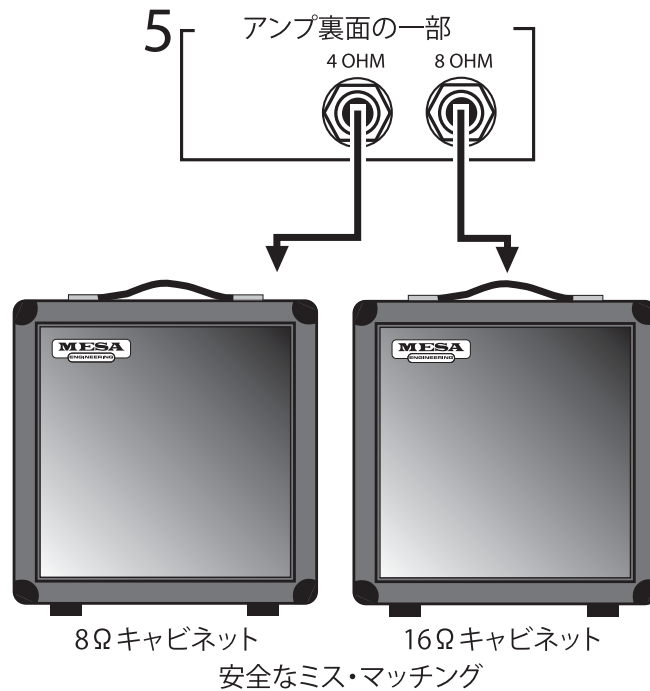
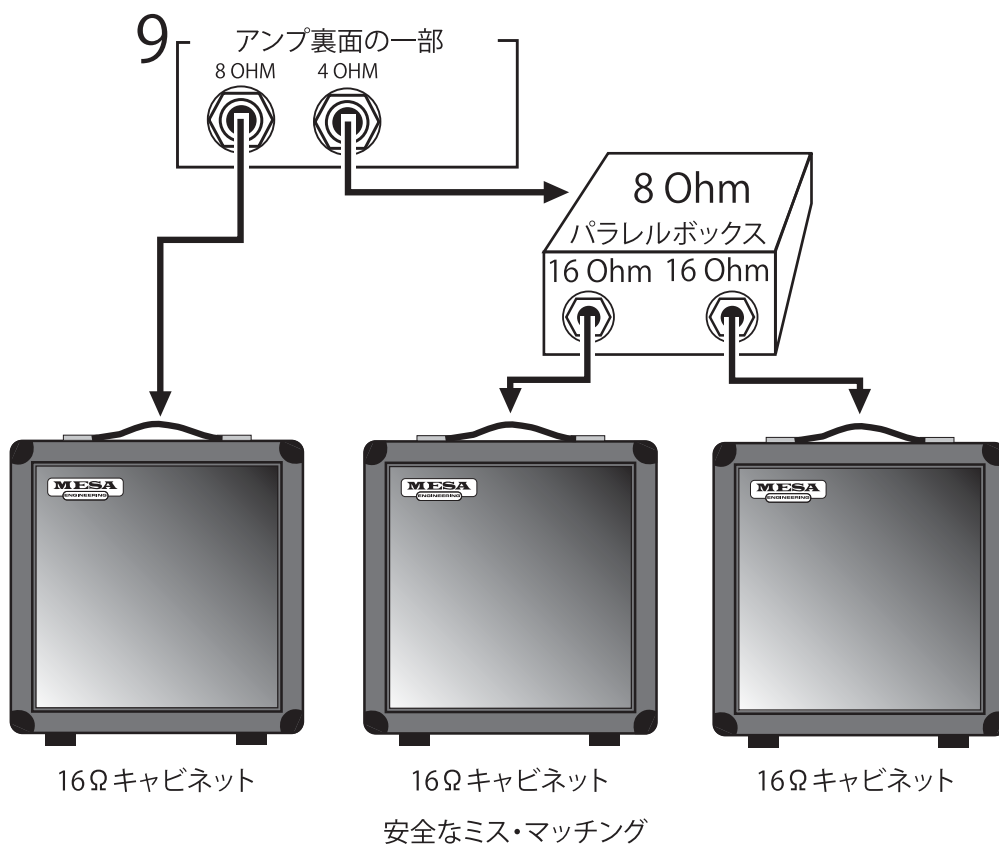
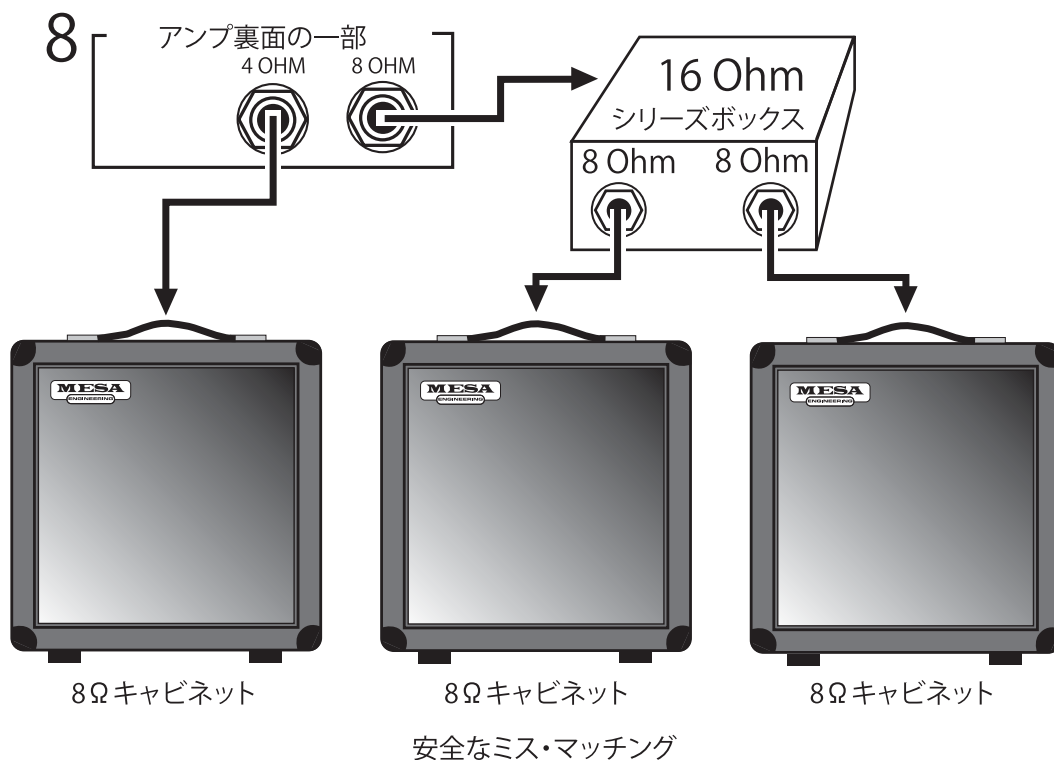
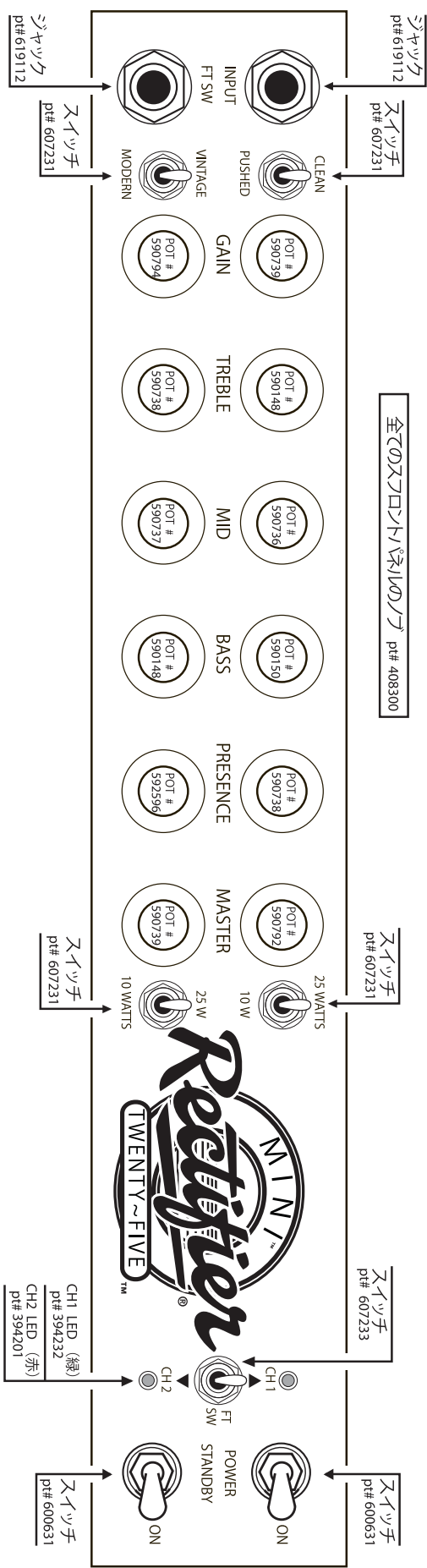
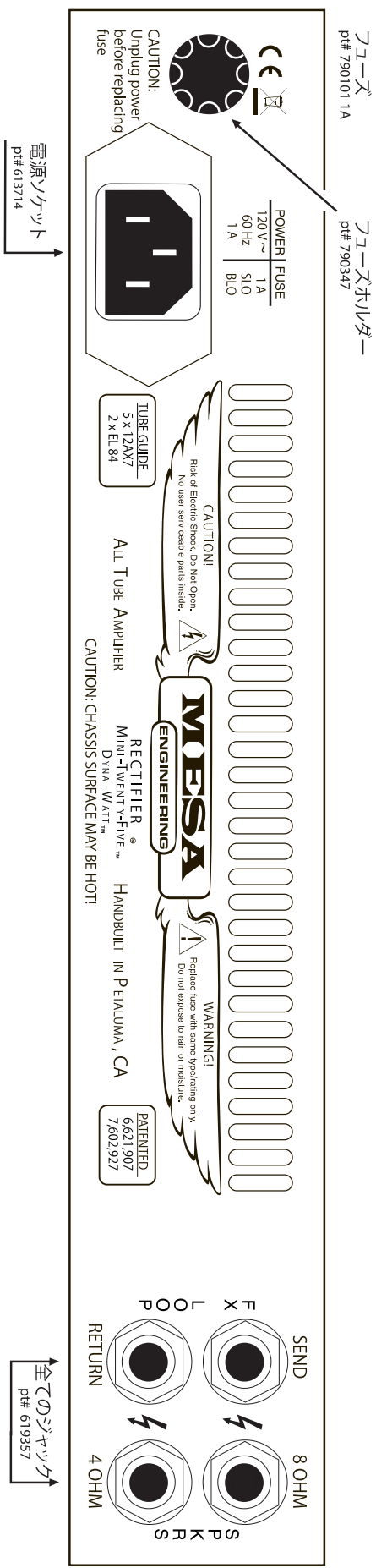
安全なミス・マッチング

6
アンプ裏面の一部
8 OHM
4 OHM
8 Ohm
シリーズボックス
4 Ohm
4 Ohm
正しいマッチング
MESA
MESA
4Ω キャビネット
4Ω キャビネット

7
アンプ裏面の一部
8 OHM
4 OHM
8 Ohm
パラレルボックス
16 Ohm
16 Ohm
正しいマッチング
MESA
MESA
16Ω キャビネット
16Ω キャビネット

接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

安全なミス・マッチング

安全なミス・マッチング

パーツ・リスト *MINI RECTIFIER Twenty-Five* フロントパネル

パーツ・リスト *MINI RECTIFIER Twenty-Five* バックパネル

The Spirit of Art in Technology

正規輸入代理店

株式会社　キョーリツコーポレーション

本社
〒468-0002 名古屋市天白区焼山1丁目813番地
カスタマーサポートセンター
TEL (03)5614-2081 FAX (03)5614-2166
support@kcmusic.jp